

第45回ゴミパイプライン協議会

会議名	:ゴミパイプライン協議会
開催日時	:2024年6月1日(土) 10:00~12:00
場所	:芦屋市環境処理センター会議室
参加者	
利用者の会より	:山口委員長、友田副委員長、春木委員、浅田委員、大田委員、野村委員、三浦委員
市より	:大上部長、尾川主幹、荒木係長(司会進行)、林主査、林課員
共同企業体より	:【TMES株式会社】金澤課長、花岡リーダー
傍聴者	:1名

司会 では、第45回ゴミパイプライン協議会を始めさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。議事録作成のためにICレコーダーで録音をさせていただきますので御了承いただきます。今日、欠席の方はいらっしやらないということでよろしくお願いいたします。

司会 では、議題に沿って進めさせていただきます。まず1つ目のパイプラインの運転方法等について、別紙資料をお願いいたします。こちらのほうTMES様、報告をお願いいたします。

TMES 資料1の1ページ目から御説明させていただきます。

まず、システム異常につきまして、令和5年度の件数は77件となっております。その中で弁の開閉異常が多く見られますが、これごみ詰まりによるものを除いて、部品交換が必要な箇所は随時実施させていただいて異常を減らせるように努めております。

令和3年度から件数は大幅に減少しておりますので、これまでの成果が出ていると考えております。

それでは次に、お問合せのほうについて御説明いたします。令和5年度はバケット下のごみ詰まりが多く35件ありまして、その中で現地確認時に、内部確認前に解消されたものを除きまして、26件中9件がバケット下のごみが引っかかっているもので、17件がバケット下より先でごみが詰まり、バケットが閉まらない状態となっております。

これについては、ごみが引っかかることで、通常は満杯センサーが反応して赤ランプとなり投入口にロックがかかるんですけども、センサー部に空間ができて、ロックがかからず、そのままごみを投入し続けることで、バケット、ごみ詰まりに至るケースがございます。

対策として、バケット下にごみが引っかからないように、このようなシールを貼らせていただいております。これは昨年度の6月に貼らせていただきました。

バケット下以降でゴミが詰まるケースについては、センサー部に空間ができるケースについては仕方がないのかなと考えておりました、あと、ゴミが内部で広がって詰まるケースについては、ゴミの捨て方に御注意いただくしかないかなと考えております。

現場ではちょっとゴミを抜き出して、何が原因で詰まっていたかというのを調べるのはちょっと衛生上、個人情報の問題もありますのでなかなか厳しい。で、原因の究明は容易ではないんですけども、確実に原因が判明しているものについては、啓発チラシを作成して掲示させていただいております。

次に多いのが鍵についてなんですけども、鍵を途中で抜くことによって、鍵穴の位置がずれた状態で次の方が使用できないという事例が9件あったんですけども、令和3年度に全箇所ではないんですけども、対応があった箇所、多かった箇所にこのようにシールを貼らせていただいております。

今後として、同様の対応を行った投入口にこのシールを貼り付けさせていただこうかなと考えております。

令和5年度の間合せにおけるバケット下ゴミ詰まりは、35件のうち、上期が24件で、下期11件となっております、下期は減少傾向にありまして、令和6年度4月から現在までですけども、バケット下ゴミ詰まりは1件発生している状況になりますので、減少しているかなと考えております。

続きまして、巡回点検について御説明いたします。令和3年度183件、令和4年度118件と徐々に減少しております、令和5年度は30件、これまでの成果が出ているのかなと考えております。

設備の老朽化は避けられませんので、今後も異常を未然に防げるようにしていきたいと考えております。

多かったのが、ショックアブソーバーの不良が25件ありまして、令和4年度が25件で、令和5年度は5件に減っておりますので、あと、部品交換についても前年度の成果が出ておりまして、27件から18件に減っております。運転報告については以上となります。

司会

ありがとうございます。ここまでで質疑等ございますか。山口さんどうぞ。

利用者の会

利用者の会の山口です。おはようございます。御苦労さまです。運転報告はいつも大変だと思うんですけども、2点あります。

1点は、まず、ワーキングでも出たんですけども、今おっしゃったことをまず紙に書いて、まず報告してほしいんです。私もこれを実際分析してまずけど、やはりデータがあって、次、何するかって、それを分析して、じゃあその分析に応じて、じゃあ次どうするかというアクションが入るわけですね。

T M E S はい。

利用者の会 それは、このデータだけぼんと渡されて、口頭でああだこうだと言われても、恐らく皆さんはすっと流れて、議事録を見るかということ、見てるのは私ぐらいかなというのがありますので、まずは1枚でいいですから、これが出たらこういうふうな分析をしましたよと。これに対して、対策はこう打ちますよというのを明確に紙にして書いてほしいんです。

T M E S はい。

利用者の会 そうしないと、口だけで説明されると、ないよりはいいんですけども、次のステップが打てないんですよ。おんなじことでぐるぐる回りますので、まずそれをお願いしたいのが1つ。

2番目、例えば、ごみ詰まり、これは当然、私たちは利用者の会として、そういうことをしないようにごみの入れ方を注意しますけども、それだけでええんかなと。何か機械的な問題で手が打てるんじゃないかという気が長年してるんです。これはこのメンバーも恐らくそうだと思うんですけど、そこをほっておいて、シールを貼っただけではなくて、何かきちっとした対策なり機械的な問題として手が打てるのであれば打ちたいし、そういうこともまた利用者の会で報告したいんです。こうこうこういう理由で機械的にはもうこれ以上できませんと。だから皆さん方、入れ方を注意してくださいということをしてほしいので、2点目は質問としてしました。以上です

司会 ありがとうございます。

市 そうですね。この星のところの下、令和3年度何件、令和4年度何件、令和5年度何件とこれを書いてもらってる。その下にでも考察、さっきちょっと口で言ってもらった考察をちょっと記入するようにしていただければすかね。

T M E S はい。

利用者の会 そうやね。それとね、ちょっと同じような。

司会 どうぞ。

利用者の会 利用者の会の春木です。どうもいつも御苦労さまです。時々現場で作業されてるのをよく最近見かけます。頑張ってもらってます。

それで、バケット下のごみ詰まりね、これもワーキングでも言いましたけど、今は袋の取っ手をここに引っかかるから、ひっくり返して入れるいうて、住民のほうでは対策してますけど。これは最初設備をつけるときに、当然この袋を入れて引っかかるような構造にしているはずなんですよ。それがやっぱり30年、40年長年使ってくると、どうしてもちょっとゆがんだり、ちょっとここが出たりして、引っかかりやすくなるということで、以前たしか対策してもらいましたね。テープか何か引っかかるんよう

に。

利用者の会 袋がね、袋を投入口に入れたときに、ぽっと入れたときに、取っ手とか、こういうなんかが引っかからんように、何か処置してもらってないですか。

市 それも僕も記憶ないです。

利用者の会 この間、何かそういうワーキングで、やったら減りましたか。

利用者の会 いやいや。

利用者の会 あれ違うかった？

市 実物を御用意させてもらって、みんなで入れ方とかは一緒にやったとは思うんです。

市 うん、やりましたね。

利用者の会 やったですよ。ああ、そう。

利用者の会 いやいや、あのね、春木さんね、ここへ設備を、利用者の会の野村です。ここへ現物を持ってきて、袋入れて、で、その何か対策するんやったら、テフロンか何かのシートを裏側に貼ったらどうやとかいって僕は言うてましたけども、そのときに何も対策を、何かしたかというとなんもしてません。ただ、こうしたら、ああしたらいいん違うか、こうしたらいいん違うかということで、それを持ってきたときに、袋を逆向きにして入れたらましになるかなということだけは話をしただけです。

利用者の会 それだけやった。ああ、そうですか。

利用者の会 はい。

利用者の会 やっぱりその辺がね、ちょっと最初の頃と比べたら多少引っかかりやすくなったん違うかなと思ってね。たしかテープなんか貼ったみたいなことを言ったような気がしたと思ったけど、何もしてないんですね。

 というのは、私らずっとひっくり返しては入れてないんですよ、過去から。過去からずっとね、もう持っていったら、ぽっと入れてパタッとして、もう恐らく、ほとんどの人皆そうやったと思いますわ。それでも1回も引っかかってないですね。そやから、やっぱりそういう年数がね、関係しとるんかなと思って。ああ、そうですか。ほなまた何かのときに、またちょっと、まあ潮見南が多かったら、ちょっと多いところに、一遍また引っかかっている部位ね、ちょっとまたチェックできるんであれば見ておいてもらえますか。

T M E S はい。

利用者の会 よろしく願いいたします。

利用者の会 利用者の会の大田です。御苦労さまです。前回のワーキングでも申し上げたのですが、この表が非常に見にくいということで、投入口ナンバーである程度まとめて書いたほうが、書いてもらったほうがより見やすいのではないかと。

T M E S はい。

利用者の会 発生月日より、どこの場所でどのような事象が起こってるかというグループのほうが大切だと思うんで。思いませんか？私はそういうふうに思った。で、ある程度固まれば、ここですごく集中しと。こういう事象が集中しているのだというのが歴然としてね、分かるということなので、これは発生月日より、そちらのほうが私は大事だと思う。改善できるかどうか。

市 これはソートの仕方だけになるので。今は、多分、T M E S さんは分かりやすいように時系列で並べてくれてるだけで。

利用者の会 時系列よりは、どこでどのような事象が起こっているか。

市 もしそれが、例えば、町であるとか、この8019とかこういうナンバーでやるかというのは。

利用者の会 ナンバーでやれば、そのナンバーはどこの町であるかというのはある程度限定されるな。

市 そうですね。それがいいんやったら、そういう形にしますけども。

利用者の会 うん。そっちのほうが私はいいと思います。いかがですか。

市 エクセルなので、これ。

市 そうです、ソートの仕方だけなので。

市 人それぞれ打ち出し方、印刷したらできますので、それは。

利用者の会 だから、エクセルでね、ソートしやすいんだったら、我々が、私が望んでる方法でやってもらったほうが我々としては非常に分かりやすいじゃないかなと。

市 データは送っておりますので。

市 まず1回ソートの仕方を。

市 ソートの仕方を。そうですね。

利用者の会 せっかくね、これをずっとこんだだけ丁寧に順を追って書いてもらってるんやから、本来やったら、このデータを基に分析、解析して、次のほうに向けてアクションどないするかいう、そういうやつも必要やと思うんですよ。そやからこれはこれで、ずっと時間を追ってね、どんだけ日にちがあったとか、これは一番基の基本的なやつやけど、今度はこれを基に解析す

るためのね、やっぱり資料要るん違うかなと。もうこれ山口さんがこっこのほうでまとめてもらってますけどね、山口さんが。こういうやつが要ると思います。

利用者の会 利用者の会の山口です。ワーキングでエクセルをこれを写しながらやりましょう。皆さんには当然エクセルはこれを渡してますので、それはなかなか大変だったら、ワーキングで時間を取ってね、ソートで、例えば投入口でほんと押したら全部、今、ソートできる状態にしてありますので、それでやりましょう。

司会 ほかに質疑等ございますか。なければ、1の2）令和5年度（2023年度）パイプライン運転に関する分析と今後の対策についても資料をお願いします。資料2のほうですね、お手元にありますか。すみません、もう一つの報告が1点あります。

市 このちょっとカラーの資料1というやつ。

利用者の会 利用者の会の山口です。資料2、これはワーキングで御説明しましたので、あんまり。

司会 山口さん、すみません。先に資料1のほうのこちらのほうのカラー刷りのやつを両面のやつを、こっち、こっちです。

利用者の会 トラブルのほうですね。はい、どうぞ。

市 こちらは報告だけになるんですけども、過去4年間の令和2年度からの利用者の会に対しての啓発チラシをつくったものになります。昔は鉄アレイとか石とか多かったんですけども、昨年度に関しては計5件、件数についてはほとんど変わってないです。ケースだけを言うと。物としては石とか、最近は何か衣類とか本ですね、ダンボールとか、ちょっと分別のところで啓発することが多いのかなと思います。これに関しては本当にもう一つ一つ潰していくしかないと思いますので、物によっては、もう実際、実物を投入口の横に置いて継続して啓発しております。

裏面は昨年度の、南芦屋浜は特に去年はなかったので、芦屋浜のほうで衣類と布、本、石、ダンボール等がございましたので。これは毎年毎年ちょっと報告だけさせていただいて、どんなものが啓発したかを御報告させてもらいたいと思いますので。報告は以上です。

司会 ありがとうございます。この資料につきまして何か質問等ございますか。これは、内容自体はもう既にワーキンググループのほうでも報告させていただいて、啓発させていただいてる内容になります。

では、次の議題に移らせていただきます。資料2のほうをお願いいたします。報告のほう山口様お願いいたします。

利用者の会 利用者の会の山口です。資料2、1ページ、これはさっきエクセルの大きな表をいただいて、私のほうで利用者の会の利用者として、どんなこと

ができるかなということで分析したものです。

1 番に書いたのは私たちが芦屋市に電話をかけて、どんなトラブルがあったかという、トラブル内容別の分析をしたものです。

多いのは、やっぱりバケット下のごみ詰まりと鍵穴の開の状態。これは機械的な問題もあるでしょうけども、私たちでできる部分も大いにあると思いますので、何とかこれを少なくしたい。できればゼロにしたいということで、今、啓蒙活動を行っております。

次の対策のほうが大切なので、まあ啓蒙活動をやらなきゃいけないということで、3 ページに書いてますように、現在もやってますけども、もうこれは永久に続かんといかんなど今思ってます。単に1 回しただけじゃないので、今はやりの言葉で言うと、態度変容という言葉をよく使ってますけども、それを頑張って、もうこれはずっとやる、もうそれしかない。しかも人が移り変わりが激しいところ、賃貸とかそういうところは人が変わりますので、やはり継続的に何回も何回もやらないかんという気がします。ということで、啓蒙プログラム強化をやると。

2 番目は、やはりアンケートというのを今までやってませんでしたけれども、ちょっとこの辺も利用者の会を通じて本当に何が問題なのかというのを分かってない部分があると思います。ですから、捨てる人の意見を聞くために、今年はアンケート調査をやってみようかなと思っております。

集計が大変なんですけども、これもね、本当の声が聞こえると思いますので、皆さん方にまたこの場をかりて御報告、御評価できると思います。ただし、アンケートに書く人はこんなことはしません。アンケートに書かない人が問題なんです。そこはいつも矛盾を感じて、まあやることはやろうということでやります。

それから、できたら、月ごとにこんな状況ですよというのはやっぱり利用者の会を通じて皆さん方に情報の共有化をしたいなと思っております。やっぱり一番大切なのは、情報をみんなで共有するというのが一番大切です。

最近、私は知らないことは罪だと思っております。あらゆること、特に政府機関に関しても知らないんですよ。わざわざホームページを見て、なかなか細かいところまで見ることは、人はなかなかいないので、その辺で私たちは情報をできるだけオープンにして、私たちのホームページなり利用者の会を通じてやろうと、この3 点を今回の分析の結果として対策を打ちたいと考えております。

じゃあ4 ページ。4 ページ、5 ページはどっちかっていうと、これは点検時のトラブル発見と、コンピューターの異常発見ということで、利用者の会で云々は、このメンバーの人はあると思いますけども、直接、分からないことがいっぱい出てきますので、これは割愛します。

6 ページ。6 ページは、私のほうで、過去にどんだけパイプラインが動いてるのかということを見つめております。これは日々、各投入口別に

全部集計をしております。

ただ、今年ちょっとうるう年がありまして、1日増えてるので、それをどうするか今悩んでますけども、2021年、22年、23年度を見ますと、23年度は97%ということで、ほぼトラブル、トラブルというか停止することがなく、工事で止まっているというのがほとんどです。ですから、そんなに大きなトラブルは起こっておりません。

2022年度は約90%、これは何かというと、大雨で雨が漏って、管の中に入って、動かなくなったというので10%ほど動いておりません。

で、過去をずっと見ていますと、大体2年に一遍、大雨で輸送管が水浸しになっています。今年はその当たり年ということで、ちょっと心配はしております。この間の水、大丈夫でした？

T M E S 運転を停止することなく大丈夫でした。

利用者の会 よかったですね。私もずっと心配で心配で。

利用者の会 うん、心配したな。

利用者の会 それで、これを見て何が言いたいかというと、パイプラインは今のところ、T M E S さんも頑張って動いてると、良好な状態で。これがもう50ぐらいになると、もういよいよパイプラインも危ないかなって、そういう指標として私どもは捉えてますので、今のところは何とかやっておられるから、皆さん頑張って、利用者の会もいろんなトラブルをしないように、みんなでパイプラインを大切に扱うということで、今のところはまあまあいい状態かなと思っております。

7ページは、先ほど林さんからあったのを1年間だけここに4件持ってきております。こういうものがパイプラインにあったということで、当然これは以前から対策を考えて現物を現場に置くとか、チラシをつくって配布するとか、利用者の会でもかなりきつくやっております。これも態度変容ということで、何とかパイプラインを大切に、条例の期間まで何とかもたせたいというみんなの気持ちをここに集めて、これをなくそうとしております。以上が報告です。何かございますか。

市 いろいろ、今、T M E S さんの出してくれたデータをいろいろソートしていただいて、こういう形でまとめていただいて本当にありがとうございます。

特に利用者目線でこうやってできることというのをまとめていただいているのは、本当にすごく有用やと思います。で、我々もやっぱり先ほど言ったみたいに、報告だけじゃなくて、ちょっと考察というんですかね、こういうことをしたら減るんじゃないかみたいなところをもうちょっと具体的に書くような形で、これからちょっと考えていきたいと思いますので。

で、こういう形で年間のデータが出て、いろんな視点からごみ詰まりでソートしたらこういう形で35件出てくるとか、時系列だけじゃなくて、いろんな面で見るということがこういうのにつながるのかなと思いますので、ちょっと市のほうもそういうのをいろいろ工夫してやりたいと思います。

司会 御報告ありがとうございます。

利用者の会 ちょっと1点だけ。

司会 はい、どうぞ。

利用者の会 春木です。こうやって分析して次どうするのかというのは大事なことでと思いますわ。それでね、この2ページ目のところで、例えば、これ2列目のところで、4番、若葉町、7件、鍵穴開の状態ってありますね。これ8059って書いてますけど、鍵穴の開で、後の処置として、休止やとか、コインマスターの不良やいう、そういう点検とか、そういう部分はしっかりやってもらうけど、住民側の鍵の凸が減つとると、それが原因のやつで、結局、合い鍵で元に戻したというのがありますね。

T M E S そうですね、はい。

利用者の会 そこのところのね、やっぱり分析が大事やと思うんですけど。それで、今、ちょっと細かいのをざっと鍵穴をずっと見ていったらね、ここに8059って書いてますけど、8059がやっぱり2回続いてるんですよ、鍵穴開。それについて何か処置されました？

T M E S そうですね、鍵、このシールを貼らせていただくという。

利用者の会 それはね、ちょっと住民側に強く、ちゃんと鍵点検せえとか言うてね、続いて起こってるでと、誰か悪い鍵持ってるでとか言うてね、もっとこう強くアピールするような、あれを何か考えてもらって。

市 ちょうどね、あの。

利用者の会 ただ単にこれを貼るだけやったらね、ああ、これは対策で貼ってるんやな、ほかのところも貼ってるんやろうなぐらいでね、自分ところの住民が鍵が（摩耗した）悪いのを持ってるというのを分からん部分ある。その辺はまたワーキングでやったらええと思いますわ。

市 そうですね、実際にお問合せ。

利用者の会 そやから、そういう分析をね、やれるような形にして、その辺で利用者の会と共有して、ほんで利用者の会で皆さんにまた言うという形でね。それまた分析のほうをお願いしますわ。

- 市 実際お問い合わせいただくのが、実際その鍵が（摩耗して）悪くなって、そのまま開の状態で帰った人じゃなく、その次の方がよくお問合せ来るんですね。
- 利用者の会 もちろん、もちろん。
- 市 なので、その実際にそこの鍵の悪い人を捕まえる、捕まえるという表現あれなんですけども、分かるというのはすごく難しいところがあるので。
- 利用者の会 もちろん、もちろん。そやからこそ、言うとりんよ。あの鍵が悪うて、悪いの持ってる人はちゃんと開けてほかして、それで戻したつもりが途中でぼんと抜けて。
- 市 そうなんですよ。
- 利用者の会 次、来た人が入らん、おかしい、ほんで連絡いうことになるからね。そやからその辺を強く、そこの住民にアピールする、またその辺をワーキングで。
- 市 そうなんです。その1つの方法として今、シールをやらせてもらって。
- 利用者の会 そういう意味でもね、やっぱりこれの分析ね。
- 市 それは多分ある程度、減少傾向にはあるのかなとは思うんですけど。
- 利用者の会 そやから。
- 市 多分、ゼロにどこまでなるか分からないですけど、ちょっと継続してやる対策の1つかなと思います。
- 利用者の会 もちろん、もちろん、その辺が大事かなと思いますわ。これを分析してね。山口さんが分析してくれてますけど、8059が2回続けると。ほかはこれ続いてないと、これ見たら。
- 司会 はい。ほかに質疑応答ありますか。どうぞ。
- 利用者の会 去年からパイプラインがストップするケースが非常に少なくなったということで、幹線部分の基幹部分かな、基幹部分の配管を変えてもらったりということの努力の成果もあるのかなというふうに思うんですけども。先日の火曜日だったかな、かなり大雨が降りましたよね。あのときでも、あくる日どうなるかなというふうに心配したんだけどね、特に大きな事象もなかったということで。やっぱり悪い部分はきちっと替えてやってれば長持ちするなというふうに私は感じてるんですけどね。
- 山口さんが言うのは、2年に一遍ぐらいそういう日があるん違うかなということだけどね、やはり悪い部分をやっぱり修理したり、交換したりしていけば、あと、もうどうなんですか、あと10年ぐらいですか、代替に替えていく期間も入れたら約10年ぐらいかな、は、もたせることが可能かなというふうに感じてるんですけどね。

- 市 そうですね。我々もその年限までは何とかもたせるように。今回の火曜日の大雨に関しても水自身は入ってきてますので、それでもやっぱりいろいろ運転工夫してTME Sさんのほうが朝の、だから私も朝の定時運転どうするの？ってちょっと思ったんですけど。
- 利用者の会 そうそう。
- 市 それもいけるような状態にはさせていただいて、特に何の変化もなく、ごみ収集をするような形にはできてますので。だから工事に関しましても、今もう発注のほうをして、まだ入札待ちという形になってますので、今年度の工事に関しましても。だからその悪いところというのは見つけながら、逆にこの雨のときに判明したりとか、そういうこともありますので、また、それは年次的に、年次計画を立てながらやっていきたいと思いますので。
- 利用者の会 そうやね、内部点検とか、点検とか。
- 市 そうですね、はい。カメラ点検もしてますんでね。
- 利用者の会 よろしく願いいたします。御苦労さんです。
- 利用者の会 例えば深夜であれば、早朝はもう判断で止めてもらってもいいと思います、事後報告も。そやから、あのときは、病院に呼び出しがなかったら山口さんにメールしとったね。頼みます。
- 利用者の会 いいでしょうか。
- 司会 野村さん、どうぞ。
- 利用者の会 利用者の会の野村です。私ところの町の潮見町が、バケット下の詰まり22件と非常に多いんで、この件に関してワーキングで今後どうやったら減るのというので、このごみの詰まりっちゅうのは前から、先ほども春木さんおっしゃったように、何か対策を考えんといかんのか、それとも住民側がその入れ方をもうちょっと熟知するように持っていかんといかんのか、どちらの、どちらも必要なんだと思うんですけども。
- 利用者の会 そうやねん、どちらも必要やねん。
- 利用者の会 そこのところはちょっと問題点として、これからトラブル、減ることになりますから、ここが解決すれば。で、そのバケット下の詰まりというのが、この今のトラブルの中で一番、このページ2で、64件のうちの過半数を占めるわけですから、その大きなトラブルでないかもしれないけど、これを何とか解決する方法を、解決っちゅうより減らす方法でしようけども、それを次回からのワーキングでお互いにちょっとTME Sさん相談してやっていこうと思いますのでよろしくお願いします。
- 利用者の会 そうですね、よろしく願いいたします。

T M E S はい。35件中バケット下にごみが引っかかっているのが、分かる範囲で9件ですので、3割程度で、そのほかはバケットの下より先で詰まった状態です。

利用者の会 バケットの下で詰まっているということは。

T M E S そうですね、段ボール等の広がりがあります。

利用者の会 引っかかりつつゆうことですね。

利用者の会 だからダンボールとかそういうのをぎちぎちに入れて、途中で止まってもて、落ちへんと。その上にどんどん。

T M E S 満杯センサーのところに空間ができてしまって。

利用者の会 ということは、無理やり入れとるということになるのか。

利用者の会 無理やり、ダンボールとかね、そういうのをがちゃがちゃと無理やり入れて、で、下まで落ちんと途中で止まってしもうて。

T M E S はい、そうです。

利用者の会 落ちてへんから、まだ青ランプやと。

利用者の会 本来、本来ならダンボール等は資源ごみに。

利用者の会 そうや。

利用者の会 出すべきものなんでね。それをまあ分からずに放り込む人間がおると。ちょっとこれあの。

利用者の会 そう。そやから分析をお願いしたいんですわ。それね、どんなもんが、どんな状況やと、袋が詰まっとるんか、それとも途中で、ダンボールとか、そういうなんかを入れた、それが詰まってるんかという。

T M E S 報告書のほうはもう提出させていただいておりまして、こういう感じの中が分かるようになってますので。

利用者の会 そうそう。そやから、その時々ここに、ほんなら、これこのうちの何件がこれで、何件がこれという。

利用者の会 あのね、その。

利用者の会 その辺のチェック、分析。ほんで、また利用者の会に言うてもろうて、ほんなら利用者の会でもまたみんなに言うて、こんなことしたらあかんで、こんなんやでと言うてね、また言いますからね。

T M E S はい。

利用者の会 私ところ、この潮見の場合は12011というのがすごく多いんですね。同じ人が同じ紙入れて同じことをやってるんであればね、やっぱりちょっとそ

れは住民側としては、もうやっぱりその人というか、その地区のそのある何件かになるわけですから、その投入口に大きく書くなりですね。

利用者の会 そうや。

利用者の会 何らかの方式を考えないと、どちらかというと、ちょっと住民として恥ずかしいことになってますので。

利用者の会 ちょっと対策を我々も頑張ってると思いますので。

利用者の会 潮見南のほうへ呼ばれて行ってたときね、潮見南の投入口が開いてるんですよ、こうちょっと、そういうのが何回かあった。せやから、それを分析した上でね、袋の入れ方なのか、それとも途中でダンボールみたいなものを入れてるのか、その辺をやっぱりちょっとはつきりね。

T M E S ちょっと見にくいんであれなんですけど、こういう感じでごみの袋が上に乗っかってしまってますので、これを取り出して原因を究明するというのがちょっと。

利用者の会 いやいや、袋やったらいいんですよ。袋やったら。

T M E S ただ、これの先でどう詰まってるのかというは。

利用者の会 そうそう。

T M E S これを取らないと、もう分かりませんので、これを取り出すことはちょっと、衛生的にも。

利用者の会 下にたまっとるやつ？

T M E S そう。投入口の横扉を開けますと、こういう感じで見えますので、これを抜き出して、その詰まってる原因を調べるというのは、ちょっと難しいかなと。

利用者の会 ダンボールやとか、そういうのは分からへん。

T M E S そうですね。

利用者の会 落ちてしまうんか。

T M E S 止まってしまってますので。

市 逆に目で見て目視でダンボールやとかって分かるやつは、こう記入させてもらってるけども、原因として分からないもののほうが多いという形ですね。

利用者の会 原因は分からないけど、T M E S さんの経験からすると、住民側が無理やり入れたものなのか、機械上のこれはもう経年劣化の問題なのか。

利用者の会 そうやな。

- 利用者の会 どちらなんやというのをね、無理やりでも判断をいただいて、それが責任があるわけじゃないので、ある程度、その判断をいただくことによって、機内の原因であればね、お互いにまた相談して何か方法ないやろうかと方法考えんといかんでしょうし、住民側の問題であればね、やはりどこをどうせいというのをやっぱりお伝えいただければ、できるだけ住民にそれを伝えて減らしたいと。人的なもんやったら、これを減らせると言うんでね。
- 利用者の会 そう思うわ。
- T M E S 一次側と二次側があって、同じ詰まりでも一次側はもう通過してるじゃないですか。
- 利用者の会 はいはい。
- T M E S ということは二次側になるので、二次側の詰まりになりますと、機械的なものよりは押し込みとか、大きなものによって、詰まってしまってるんじゃないのかなというのが、ある程度考えられます。
- 利用者の会 そやからその辺をね、これまでの作業されてる方の勘、勘でもいいですわ、ああ、こいつは袋にいっぱいぎゅうぎゅう詰めたから止まってもうとんねや。それか、この袋のこの取っ手みたいな、これがね、引っかかっているのか、どっちやという、その辺を分析してもうて。
- 司会 バケット下のやつに関しましては、運転報告のところの、先ほど野村さんがおっしゃったように、地域特性か、もしくは投入口特性とか、また、そういう人的なのか、機械的なところなのかというのをまたワーキングのほうで。
- 利用者の会 そうやね。
- 司会 細かく話させていただきたいなと思いますので。
- 利用者の会 その辺はね分析して、住民に言う、どれを言うかということで。
- 司会 すみません、ちょっとほかの議題もございますので、次に行かせていただきたいなと思いますので。次、2の代替収集ロードマップボリューム3ということで、資料3のほうをお願いいたします。
- 市 芦屋市、林です。よろしくお願いいたします。
- 資料3のほう、こちらですね、ワーキングのほうでもお示しさせていただいてると思うんですけども、ボリューム3、赤色で3を変えさせていただいておりますのと、本日が6月1日ですので、令和6年6月ということにしております。
- ワーキングのほうでもお話しさせていただいたとおり、3ページ目のほうになってきます。ストーリー（シナリオ）マッピングのほうですね。こちらのほうをちょっと年度が西暦だけでは少し分かりづらいよという御指

摘がございましたので、今後の令和の記号を、和暦ですね、そちらのほうを入れてほしいということがありましたので、令和6、令和8、令和10、令和12、緑色の部分を入れさせてもらってます。

あと、いつからパイプラインが閉鎖を順次していくんだというのも明記しておかないと駄目だよねというお話がございましたので、2033年、令和15年から5年をかけ、順次パイプラインを閉鎖するという文言を加えさせていただきます。

ワーキングのほうなんですけども、その中で、今後2年間、令和6年、令和7年のほうで、先ほどのマッピングのほうの複数の代替案の作成、評価基準の策定、代替案の評価、令和8年から2年間で代替案の決定、実証実験とその評価、こちらのほうを行うことを確認いたしました。全体のほうは以上になります。

司会 ここまでで質問等ございますでしょうか。

利用者の会 利用者の会の山口です。これを見て、早う閉鎖したいんやなという気はします。それは条例で決められてるんで、それに従ってやと思うんですけども、この中に言葉として入れるのはないんですけども、できるだけ早く前倒しでやりたいと。それは自然災害とかいろんなものが今後考えられますので、それを含んで、このプランニングをもっと早くやれたらいいな、できるだけ早くやりたいなというのが、どこかに皆さんの合意として入れられたらいいかなと思います。以上です。

利用者の会 それともう一点だけ。

司会 はい、春木さん、どうぞ。

利用者の会 もう一点だけ。この中でフェーズ5、合意形成と協定、これは何、緑かな、2033年、令和15年から5年かけて順次パイプライン閉鎖となっておりますけどね、私、南芦屋浜なんですよ、南芦屋浜の住民です。ほんなら、順次5年かけてパイプライン閉鎖、ほんなら私ところの自治会でこれこんな出てるからって説明したら、え？こんなとこで閉鎖になってしまうの？違うやないかということになるでしょう。そやから、これは順次5年かけて順次。

市 そうですね、芦屋浜地域のことですね。

利用者の会 びっくりするから。

司会 友田さん、どうぞ。

利用者の会 利用者の会の友田です。御苦労さまです。それで、2033年に順次これから閉鎖していくというのは住民の方も大体もう周知されております。中には知らない方もおられますけれども。

それプラス、あと終わった後に、やはりパイプのほうのモルタルとか何かで埋めないといけないですね。それが数年前まではざくっと言って、総

延長を考えると、約40億円から50億円かかるん違うかということは、これは想定ですね。あらゆる計算で市のほうも言われたと思うんですけども、それについては、あまり皆さん知らないんですよ。

廃止した後、このまま置いておくん違うかというイメージの方がいるんだけど、例えば、バス道の下に走ってるとか、学校の近くに走ってるとか、これはもう産業廃棄物として規定されてるから、国としたら何らかの対策をせないかんと思うんですよ、あの法律でね。だから、その辺のお金も大体そのぐらいかかるんだよと。

これはまた非常に先の話ですから、金額を算定するのは非常に難しいですけれども、やはりその条件として、今、何年度の物価高で、レベルで見たら、それぐらいの費用がかかるんだということは、やはりある程度、これからそろそろ周知ですか、しておかないと二、三年後になって、ええっ？とかなって市のほうの予算も多く狂ってくると思います。以上です。

市

撤去費、まあ撤去とは限らず、モルタル充填も含めて考えていかないかんののは確かです。ただ、条例上ではその金額は実は入ってない金額になります。だから、もちろん止まった後というのは空気も通らないので、腐ってきて道路陥没とかになる可能性もございますので、そこはちょっと随時考えていかないかんとは思っています。ちょうど逆に道路工事がそのときにあれば、そのときに一緒に撤去させてもらうとか、そういうところは、いわゆる、そういう協議会みたいなものもございますので、そこに顔を出しながら、ここを工事する、そのときじゃあ一緒にというのを考えながら、そういうところじゃないところというのは、そのモルタルを埋めながらというのはちょっと。

で、もうちょっと先ですけども、その金額についても、今はそのメートル当たり何ぼというぐらいでしか出せないんですけども、直近になったら金額についても精査していきたいなと思ってます。

利用者の会

利用者の会の山口です。この件に関して、実は新潟県の長岡市がパイプラインをやっと止まりました。今、代替案でスタートしてます。そこに僕、連絡取りまして資料を頂きました。その中の資料の中に、その市は5年かけて全部モルタルを中に入れるというプランがきちっとしてるんですよ。ああ、5年もかけてやるのかってびっくりしたんですけども、大阪は既にやってますよね。ですから、やっぱりその辺のプランというのをあるタイミングではやはり考えて予算化をしてやらなきゃいけないかなという気はしております。以上です。

利用者の会

いいでしょうか。利用者の会の野村です。そのリユースということは何か方法としても考える必要があるんじゃないかと。1つは箱だけは、それを使って地下ピットでゴミを上げるというのを提案したことも、今も検討事項の中にはあるんですけども。そのパイプライン自体があるわけですから、それを南芦屋浜は無電化、電線がないわけですけど、潮見のほうは電線があるわけですから、そこ、その中に電線を入れるとか、何らかの方法で、それをリユースが図れれば、特にこれも何でも壊したり、もうもった

いないということをもうちょっと考えないと。

日本の家でも何でももうちょっと何やしたら、もう壊してしもて建て直すと。あれはもったいなさ過ぎるわけですから、公共の設備にしても、何か大阪の市役所なんかでも、区役所なんかそうなんですけどね、耐震構造が悪いからいうて全部壊してスクラップダウンなんですね。で、もう一遍建て直すと。

それもいいけど、もうちょっと何か使う方法というのも。特にヨーロッパの町並みのパリやら見たら、石でつくって、もう1500年、400年、500年たってるわけですね。それでも中、改造してパイプ関係なんかは全部やり替えてますけども、ずっとそのまま外観保ってそのまま使っとるわけですね。だから、その辺のところは日本もちょっと考えないとあかんの違うかと。

だから、そういう意味では、今のパイプラインなんかも、何かそういう方法を、次の世代の、もうちょっと時間がありますから、ワーキングでも市のほうなんかでもそういうのをちょっと話をしていけばどうかなと思いますけど。

利用者の会 そうやね。

市 多分、条例つくるときも、でも同じような話をして、ライニングの話もされてたと思うんで。今決めることじゃないと思うのですが、タイミングを見て、撤去とか、モルタルとかの対応をどうするかというのは話し合ったらいいんじゃないのかなと思います。

利用者の会 そうやね。それとね、すみません、春木です。それとね、一番気になってるのが、他地域の住民やとか、議員やとか、役所の方々がね、新しい世代に変わったりとか、いろんな理由があると思うんやね。ほんで、尾川課長にも言うてもらってますけど、撤去費用とか、そういうやつは条例には入ってませんと。45年間で約85億円、341億でいうと約85億円。

市 分かってます、分かってます。百何ぼって言うたんで、はい、合ってます。

利用者の会 342億言うてたやつを、341億。それに対して約85億に下がってます。その85億の中には、このモルタルやったり、あれやったり、そういうのが入ってないと。この辺はね、また引き継いで引き継いでね、しっかりその辺を理解してもらうとともに、また議員なんかはね、議員というか、上のほうの住民だとそんなことを言わんようにね、その辺ちょっとしっかりアピールもまた時々、その時々でお願いしたいと思います。

市 そうですね。でも、その話合いの中で多分ライニングの話とかも、以前、野村さんから多分出てきた話になるので。それもあって、今回あそこにも入ってない分があるので、タイミング見て、まず優先順位はまだ低いとは思いますが、優先順位を決めながら話し合う必要があると思いますので。

- 利用者の会** そうやね。そのうち、芦屋浜をやめるときに、もう南芦屋がやめてまえてね、そういう意見がまたいろいろ出てくると思うので。その辺をしっかりとお願いしますわ。
- 市** そうですねとしか言えない。はい、分かりました。ワーキンググループは月に1回ありますので、皆さんと密に話し合いを進めていきたいと思えます。
- 利用者の会** 野村さんが話しをされましたけども、現在のパイプを今後どうするかと、廃止になった後どうするかというのは、このリユースの部分で無電柱化を含めてという話は、もうワーキングが始まった当初から、もうこれ議題として出とったわけなんです。話としてあったわけ。我々言うたはず。現在のパイプをそのままモルタルで埋めてしまうんじゃないし、リユースできるんならできる、できないならモルタルいうことをね、この選択肢をね、やっぱり研究して持っとくべき違うかなと思う。
- だから、わざわざ現在のパイプがある、かなり腐食はしてるけどね、腐食はしてるけれども、その中にもう一つパイプを放り込んで、放り込んでですよ、で、電線等を敷設すれば無電柱化という意味合いでは利用できるなということがあるんだとかね、いうふうなことも、やはりちょっと研究してもらわないといけないん違うかなというふうに思うんです。せっかくの資産がね、芦屋市の資産ですね、住民の資産でいうところを、再利用できることをもっと考えるべき違うかなというふうに思うんです。
- 市** そうですね。何度もなってしまうんですけど、まだ今は代替とか優先順位決めながら話し合って、タイミング見て、切替えの時期とかに、さあどうするんだという話し合いを皆様としていく必要があると思います。
- 利用者の会** ちょっとよろしい？三浦です。
- 司会** 三浦さん、どうぞ。
- 利用者の会** 再利用いうてもあれ鉄でしょう。鉄はあのまま埋めて再利用できるのかどうかというのは非常に問題があると思いますね。もう埋め込んでしまったほうがどっちかいうと費用も安くつく。
- 市** 再利用するんであれば、やっぱりその中をライニングしてという形を取らないと、今こうやってやっぱり鉄があかんようになっていってる状態なので、怖いのは怖いんです。
- 利用者の会** その件ですけどね、ライニングに関してはね、下水関係のところで技術がある人に、私、浅田さんと一緒にどこやったかな、大阪の梅田のところへ一応その話も聞きにも行きました。だから技術的にはある程度可能なんです。だから鉄管があって、鉄管が腐って、その内側にだからライニングでポリエチを巻くわけですね、巻いたら、それでそのまま保てるので、それは今度は水入ってこないし、それ以上、だからポリエチの管を埋めたみたいになって、今度そこから先は結構、年数としてはもつことになるか

ら。

利用者の会

その中で震災とかが起きてね、補修せなあかん部分が出てくるとね、余計、逆に面倒になってしまう可能性はないんですか。

市

もうね、やっぱりそれはもう無電柱化をするかどうかというところの議論になってくるんですけども、やっぱりその無電柱化をすることによって景観がよくなるとか、電柱が倒れないので、震災とかのときに消防車とか救急車が動きやすいとか、いろんなメリットはあるんです。

ただ、その無電柱化してない場合というのは電線が切れたらすぐに分かるんですよ。ここが切れてる、だからここだけ復旧したらとか分かるんですけど、無電柱化の場合はどこが切れてるのか、要するに、開閉器が、区分開閉器というのがあるんですけども、その区分開閉器ごとに調べていかないと分からないというデメリットもあります。

だから復旧がちょっと遅くなるというのもあるので、そこはもうほんまに我々のもっと上のほうの市の方針として、例えば芦屋浜を無電柱化するのかというところ、南芦屋浜はもう無電柱化というところでまちづくりは進んでますので。だからそれに便乗できれば、やっぱり我々も今の既存の資産としてのパイプラインの管というのを使うことができると思いますし、そこはやっぱり、これからの情勢を見ながらやっていく必要があるのかなと思います。

利用者の会

いや、これはね、もうそないなってくるとちょっとこの話ではないかもしれないですけど、都市開発とか都市計画になってしまうから。というのは、共同溝、だから電柱に、無電柱化だけのパイプラインの400、500のパイプの大きさがあれば、もっとその線だけじゃなくて、いろんなもんが中へ共同溝として入れることができるわけです。それは将来にわたって、だから負の遺産が今度は逆に言えばプラスの遺産になるんですね。

で、今、尾川さんがおっしゃったみたいに、土の中に埋めるのと違って、共同溝を入れてる場合はね、電線ついでに復旧に関してはすごくやりやりんですよ。ただ、その中に水が入ったらどうなるねやとかいう問題も出てきますけどね、そういう点はあると思います。だからそれはちょっとここでのじゃなくて、どうなのかな。

市

そうですね。ちょっと都市計画のほうの。

利用者の会

ちょっと話が大きくなり過ぎてしまうと思いますのでね。

利用者の会

そやから、もうちょっとこの中のフェーズ4、2028年度とかね、ある程度、どこからやるかというのは、またワーキングでやったらどうかな。また、その先になったら、また状況が変わってくるか分からんから。

利用者の会

先ほどモルタルで埋めていくのに、今のところの試算で、友田さんが四、五十億とかいう話が言われたけれども、その投資金額と無電柱化を図るための施策とを比較して、どうなんかな。将来にわたってどちらがいいん

だということをやっぱり考えていかないと、将来の芦屋市ということですね。他市に比べて先進的な芦屋市やろというふうに言われるようなね、やっぱり市にしていけないといけないということで、その辺のところも検討の余地が今後はあるなというふうに思いますけどね。

司会 代替、配管の再利用については、また、まだまだ先の話になると思うので。ちょっと時間押してるんで、次の議題のほうに移らせていただきたいと思います。

利用者の会 ちゃんとテーマとしてちゃんと覚えておいてもうて。

市 それでは、続きまして、2番の1) 本年度の年間スケジュールというところで、この間のワーキングの話の議事みたいにはなってるんですけども、代替案の作成と評価基準の策定のため、市のほうから次年度に原寸模型の制作を提案しましたが、利用者の会からは設計図によって検討可能であり、原寸模型は不要である旨の意見をいただきました。これにより、次年度設計業務委託のほうの予算を確保していくようになりましたので、本年度につきましては、設計事務所などのヒアリングによって費用を検討していきたいと考えております。利用者の会から設計の際には、使い勝手が理解しやすいよう、三次元モデリングによる資料提供が可能な設計者の要望がございました。

また合わせて、次年度の設計に向けて複数の代替案の設計の基となる基礎案のほうを立案できるよう利用者の会から要望のある仕様書、仕様書という代替施設の性能を網羅し数あるごみ収集方法に対しふるいをかけ、適切な代替施設を抽出するフィルターの機能を持たせるもの、こちらのほうを早期に完成させ、そのフィルターを通し、多数のごみ集積方法から基礎案を策定する予定になります。以上です。

利用者の会 利用者の会の山口です。まず、この2の1) の本年度のスケジュール、これはこの下にいろいろ書いてありますけども、これは資料として別途してください。次第なんで、こういう話はやっぱり違うものにしたいほうがいいと思います。これごちゃごちゃ説明すると、ほかにも説明したいことと同じように、同じレベルでいっぱいあるので、今年度の年間スケジュールということで話をしたいということで、ここで次第は止めてほしいと思う。で、別途、話し合う資料として、下に書いてあるようなものをつけてほしいと私は思います。まず、これが1点。

2点目、この間のワーキンググループで話があったことと違うことが書いてある。こんなこと話してませんよ。

まずね、一番大切なことは、今年度何をするかといったら、これも途中から書いてあるんですけど、利用者の会から要望案も出てるんです。こんなものを解決しなきゃいけないということを60から70出してるんです。それに応じて、今、一個一個詰めてる作業をしてるんで、書くとしたら、利用者の会から要望が既に出てるものをベースとした住宅形態に応じた仕様書の作成をいつまでにするかというのをここに書かなきゃいけない。例え

ば今年度、3月中にするということは、ここに書かなきゃいけない。

2番目として、それを今度は基にして三次元CADでもいいですけど、そういうもので、基本的なベースとなる設計をこれは住宅形態に応じてつくらなきゃいけないので、今はあくまでも戸建ての話をずっとしてますので、そういうものを次年度予算化するとかね、そこの話はまだしてませんけども、そういう話じゃなかったですか。今年度中にそんな話をするなんて話、僕はしてないというふうに理解をしてるんですけども。まずは、仕様書をきちっとつくるのが今年度の目標であり、すべきことじゃないですか。私はそういう意見です。皆さんはどう思いますか。

利用者の会 そういう話でしたね。

利用者の会 ええ。そういう話です。

利用者の会 その来年度予算というのは、要するにCAD、絵を描くということで、それがいろんな方式に転用できるから、まず、そこがきちんとした、基本的なベースの絵を三次元でつくりましょうと。それを流用していくのはこの先の話ですけども、その予算を取るという話でしたよね。

市 はい。

利用者の会 で、その今、山口さんおっしゃったように、どういうものがあってという、そのスペック的なものを今年度詰める。で、来年度、絵を描くときに、それを盛り込んで発注するという形ですね。ですから階段が、3段ぐらいのやつを一遍に書いてるから、ちょっと混乱するんですよ。

市 そうですね。ちょっと分かりにくいかもしれへんで、そういう形で。

利用者の会 いや、利用者の会の野村ですけどね、今、山口さんおっしゃったようにね、今年はそんなに、そんなペースで今ワーキングで話できてません、できてないと思っています。もっとね、そこのところね、今は一戸建てだけのことを、ちょっとここワーキング詰めてますけども、今度、集合住宅のほうもどんな形のものをどうするの、それから、今度そこへどう言うか、収集車が入ってこられるのかとか、そういう問題とかいろんな問題があって、その辺のところもう少しみんなで詰めないで、設計もくそも、そこへ行かれへんわけですよ。

だから、その原寸のモデルもくそもなしに、まず最初、設計するために、設計のために設計者に対して、こういうものをつくってくれっちゅう、いろんな案を入れたものを、まず最初、設計に提示して、提示する手前にはそれだけの資料が要るんです。その資料を我々ワーキングでもう少し何回か話を重ねてつくらないといかないと思います。だから、ちょっとこれ話が、こんな話してなかったと思いますけどね、そこは難しいよという話をワーキングでしたと思うんですよ。

利用者の会 そうです。私もそう思いますわ。

- 市 そうですね。だからあれですね、結局はその、そういう3D CADみたいな形のやつのための予算を今年度は確保するという形。
- 利用者の会 うん、そうです、そうです。
- 利用者の会 それで、書くものがどういうものになるのかは今年のうちに詰めましよう。
- 市 そうですね。それをその人に、じゃあ来年のその人に伝えるために、このいわゆる仕様書、利用者の会から要望が既に出てるやつに関して、もっとまとめていって、そのフィルターとしての機能ができるように仕様書を作成するというのが第一義になってるってことですね。
- 利用者の会 現状把握には時間かかると思います。一戸建てやとかね、高層やとか、タウンハウスとか、それらを含めて。
- 利用者の会 もう一つ言うとな、2日前かな、に利用者の会があって、そのときに、この、どう言うんかな、覚書のもの、令和6年度版のこの引継書ちゅうのを皆配って見てたんですけどね、2015年にこれ始まってるんです。この中のほとんどのメンバーね、これ今ずっとその2015年から今もやっってるんです。
- 利用者の会 そうや。
- 利用者の会 やあって、もうちょっとしたら10年なんです。でね、10年というとなかなかね、もうその中にエネルギーを保ってる人もあるんですけど、私なんかもうちょっと年でね、後期高齢者が近づいてくるとね、やっぱりちょっと自分のペースも落ちてきてるのが分かるんですね。一生懸命、何とか頑張ろうとしてるんですけども、これね、あまりスピードを上げてもうたらね、ついていかれへんというかね、いうのもあるし。
- それから、もう一つは、この最後、合意形成ってまだここから10年ぐらい先の話なんですよ。で、10年は絶対私、自分で自信を持ってここで作るのは、もたないと。今このうちの半分以上のメンバーはもたないやろうなと。そやから、その意味ではね、今度、我々人間の、利用者の会の引継ぎも考えんといかんわけですよ。それと同時にこの問題の引継ぎと両方が出てくるんで、それはいかに文書化して、ちゃんと明文化しておかないと引継ぎもできへんのでね、そこら辺のところをすごく私としては、今、今日も話をしながら悩み、矛盾を感じながら、俺たちどうしたらいいのかなと思ってる次第です。
- 利用者の会 いや、そらね、私らも後期高齢者もう既になつとるからね、ほんで最初からずっとやっとるんやけど、ほんなら令和30年から2年かけて言うとるけど、私らもうそのとき100歳になつとる。そやから、その辺がね、大きな課題やし、行政のほうもやっぱりちょっと引継ぎね、やっぱり十分引き継いでほしいなという思いがあるわけです、条例をちゃんと遵守してやと、あのときちゃんと住民の皆よう頑張ってくれた、行政としても十分あれす

る責務がある、あのとき市長さんも皆言うてた、ちゃんと引継ぎしてやってほしいなと思いますわ。

市 そうですね。その辺に関しては、我々も異動のたびに人は替わっていきますので、引継ぎというのはしっかりやっていきますし。

利用者の会 そうそう、やってね。

市 ほとんど替わっていないメンバーがほとんどなので、そういう面ではちょっとありがたいなとは思ってるんですけど。

利用者の会 ちゃんと議員もちゃんと見といて。

市 そうですね。

利用者の会 この文章ですけれどもね、私が言ったように、まず最初すべき1番は、利用者の会から要望のある、いろんな要件をとりまとめ、ベースとした住宅形態に応じた仕様書の作成が今年度の1番の目標で。2番目として、もしそれができたら、次年度、その予算化、三次元CADの設計の予算化をする。仕様書ができないと、できないでしょう。だから今年は、今年度の目標としては、もう全力を尽くして、その住宅形態に応じた仕様書の作成をする。もうこれが一番やと思います。

利用者の会 まあちょっと時間かかるかもしれんね。

利用者の会 部長がいらっしゃるんでお話ししますけどね、この仕様書に関してもね、場所によって、道路側から回収員が取れる部分と、投入口部分のほうから取れる部分といろいろとケースが違うと思いますわ。だからその辺も含んでね、いろいろやっぱりケース・バイ・ケースで考えていかないと、これでいくと決めた場合、これがほかでは利用できないとかいうようなことがあるんでね、やっぱりちょっといろんなことを考えをもってやらないと失敗するん違うかなというふうに思うんで、十分、今後検討していく必要があるん違うかなというふうに思います。

市 ありがとうございます。そういう意味でね、昨年度からもごみの実際の収集する部署の職員も必要に応じて、ここの中にもね、そういうことも想定していただけてますし、市のほうでも同じ考えでございます。で、同時並行でしっかりと戸建てのほうの準備もしながら、ほかの住宅形態に合わせたものをという、一個一個がとどまっとってもなかなかあきませんので、市は市としまして全体ビジョンを見たスケジュール感をしっかりと、市の中でも予算確保の面でも、人の引継ぎの面でもしっかりやっていかなあきませんので、はい、十分、ちょっと表現の仕方と御提示の仕方に誤解を与えたかも分かりませんが、ワーキンググループで御指摘いただいたことと、仕様書をしっかりつくろうとしているところは沿ってる部分も御理解いただきたいと思いますので、そこをもう引き続きしっかりやっていきます。

利用者の会

利用者の会のほうで先行してね、収集担当のほうが、今後ね、高齢化、少子化を含んで、金属ボックスの中にカートを入れるとかいろいろ話も出たんだけど、実際言うて、この収集班のほうが、カート式で機械で、リフトでこう上げるという回収の仕方、今までの所要時間というかな、私が思うには、今の人員でばあっと手際よくやっているが1.5倍ほど時間かかるんじゃないかなというふうに考えるんだけどね、その辺のところもあるし。

ただ、地域の金属ボックスなんか見ている、中にカートを入れてるようなところは一切ない。そこを開けて回収、市の回収の方が集めてるところがほとんどやないかなと。その辺のところもね、今後どういうふうにしていくか、少子高齢化も含んでどうしていくかということもやっぱり考えていかないといけないんじゃないかなというふうに思いますけどね。

市

特に、これまたごみのことなので、坂もあれば、細い道もある、市全域を一気に見てしまうと、これ大事な、こちらの地域のやっぱり安全と円滑な引継ぎ、乗せ替えということを考えたときにちょっとあれなんですけども、ただ冒頭から今回のことはパイプラインの廃止に伴う代替収集案とか、その形状というのは、やっぱりほかの地域でもモデルになるようなことを研究しながらということもいただいております。で、この地域だけ考えても、今おっしゃったような課題、そのとおりです。

でも、例えば、収集のその効率生で言いましたら、この御提示していた案が上がってますカート式というのは大体マンションさんとか大きな集合住宅さんで、それを基にそういう仕組みを持つてるところがあるのは、御存じのように市内でもございますし。

利用者の会

戸建てでは少ないよね、ないに等しいかな。

市

そうです、そうです。その戸建てでそういうことをできるモデルをどうするか、これはもう収集のほうもそういうことも想定しながらです。例えば、いろんな形状がある中を今のルートどおりに行こうとすると確かに非効率になりますが、例えば、そのカート式のところだけ回る車両と部隊を整備してとかいうような、収集のほうもいろんな発想を変えて工夫をしていかなあきません。

職員も高齢化していく中、減っていくというような状況も同じような課題でありますので、うまくそういうところをしっかりとちょっと視野を広げながらね、とにかくでも目標を共有して、やっぱり進めていこうという思いは持っておりますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

市

それと、あと、さっき山口さんおっしゃっていただいたように、今年度の目標として利用者の会から要望が既に出てる仕様書、これを住宅形態に合わせた状態で仕様書をまとめていく。

で、いわゆるさっき言った3D CADみたいなところは、ちょっと拙速であるという話もあるんですけども、ちょっと役所の予算の関係がござい

ます。この要するに、進捗状況、この仕様書のまとめる進捗状況に応じて、例えば、それが秋までに何か1つの、何かある程度のあれがあれば、その秋に、役所はその、前年度の秋に言わないかんですよね。それがやっぱりちょっと厳しいなという形になったら、今度は令和7年の秋に応募して、令和8年度の予算という形になります。このいわゆる令和8年度のところのストーリー、このシナリオマッピングを見てみると、もう次のフェーズとしてフェーズ4という形になりますので、ちょっとここのそごが出てくるような形になるので、ちょっと進捗状況を見ながら、1番の第一義としては、今の仕様書をまとめるというのがメインテーマになりますので、その進捗状況を見ながら、うちとしても令和6年度の秋にちょっと要望をしておくのか、令和7年度の秋まで待ったほうがいいのかというのはちょっと考えさせてもらいます。

利用者の会 うん、そうやね。

利用者の会 もともとその話が出たのはね、実物模型つくるっていう話になったので、実物模型つくるの意味ないよと。で、3D CADをつくったもので、それを書き換えるとすぐだから、それで、それを変更変更しながら、やっぱりベースのものは早くつくったほうがいいんじゃないかということで。

市 そうですね。

利用者の会 実物模型よりもそちらを優先ですよ。

利用者の会 ぜひね、その辺ね。

利用者の会 利用者の会の友田です。今言われた次のステップということで、コンテナですか、で、枝があって自動的に、要するに、非接触という切り口でもありますけども、隣の私、西宮市、親戚がいるので、大きな、ほんで、今日は何の日、ごみの回収日ということで、お話を聞くと、要するに、それでパッカー車の人に直接私、降りていって聞いたんです。ほんで、何でこれせえへんの？と、それは可燃ごみの日でした。ほんなら何をやってるかというたら、この西宮市の製作してるこのパッケージのコンテナにみんな入れてるんですよ、それを収集員がこの機械にセットしなくて、手でやってる。それから何でいうたら、もう効率ですわと。

だから、ほんで次、また面白いなと思って、次は瓶とか缶とか不燃ごみの日に、その友達に聞いて、いつやねんと、ああ、そうかと、その日も見に行きました。それはちゃんと入れてグリーンしてるんですわ。ほれで、同じ、人は違いましたけど、収集員。ほんで何でこれしてるの？言うたら、いや、やっぱり切るから、手を切るからということで、西宮市のほうも、ごみは可燃、不燃ごみも袋に入れないかんわけですな。そこで手でやっちゃうと何かグサッといくから、それですわと、もう単純ですわと。まあ、そういうことでした。

だから一度、現場同士で西宮市の収集員の人の話を聞いてみると、どんなんですかと。それも絶対必要ですよ。1個これで聞いたら、70万円かそ

れぐらいですよ。そういうことで無駄なものをつくったら絶対にいけない。

だから、ほいで、例えばオフィス同士で、例えば西宮市役所のごみ係に電話して聞いてみて、どうですかいうて、ちゃんと。ほんなら、現場の人は、要するに仕様書が事務所から来てるから、せっかくコンテナつくったのに、ああ、使わないかんいうことで、それはやってるか言うたら、やってます言う。やけど現実スピードです。だから、やってない。

だからその辺も裏と表があるから、ちゃんと把握していかないと、本当に無駄な長物をつくっちゃう芦屋市になるから、それはぜひ確認をお願いしたいなということです。以上です。

市 その件はちょっと含めて、いろいろ調べたいと思っています。

利用者の会 そうやね。そやから現状把握ね、やっぱり他市、前もそういう意見出たと思うんですよ。日本全国のそういう大会なんかもあるでしょう。

それと、パイプライン地域でもね、山口さんが中心になって以前調べた、それぞれの投入口ごとの周囲の状況、あれたしかね、投入口ごとに全部あれ、山口さん調べはったですね。こんな状況で収集車がどんなんこんなんいうね、あれまだ残ってる？

市 調査表ですか。

市 もちろん残ってます。

利用者の会 投入口ごとの周囲のあれがどうなっとる、収集車がどういう経路で来られるかとか、そういう調査するための。

市 いろいろ頂いたやつは修正してお返しはしています。

利用者の会 そうそう。それもね、十分、事業課と一体となって、その辺によって全然違ってくるからね、どこを経路を通して、それと今ある投入口をこっちと一体化してこの辺するとか、もうその辺変わってくる。その辺もしっかりちょっと見ておいてほしいと思います。まず現状把握お願いしますわ。

ほんで、あの条例化の中でもね、技術革新や住宅形態などに鑑み合理的な収集方法の検討を続けますいうのと、環境への取組ということで、騒音対策など、温暖化、電気自動車型ごみ収集など運用にとって試行的に当地区に導入することを検討しますってなってるからね、それやっぱり検討してもらわないかんわけ。

市 それも以前、収集事業課さんが来られて、その話もさせていただいたと思うんですけども、今の市場を見ながら話し合うというのは記録として残ってるかなと思いますので。

利用者の会 今後とも、その辺。

市 ルートの話も多分、実際、私たちよりも実際に収集する方、今、どこに

何を置くかによってまた変わるかもしれないんですけども、そこで話し合っていくことかなと。物を決めてからルートを決めるとか、そこら辺の優先順位決めながら進めていくべきかなとは思っていますので、よろしくお願いします。

司会

ちょっと時間が押してるので、本日、今年度は住宅形態に合わせて代替施設の仕様書の作成というところに行こうかなと思います。あと、御意見いただきましたカートにつきましては、実際に使われてる方の他市の事例等もヒアリングもしていこうと思いますので。

議題のほうになるんですけど、3、令和6年度の目標について、資料4利用者の会お願いいたします。

利用者の会

資料4の利用者の会の今年度の活動目標ということで、4点考えました。

上にサマリーを書いてますけども、パイプライン停止を、我々が原因でパイプライン停止をゼロにするということは引き続きずっとやっていきます。

それから、情報の共有化、こういう協議会とかワーキングとか、いろんな形で会議をやってますので、それを必ず各自治会の方、それから管理組合の方にも徹底しようということで、活動を行います。で、代替案の継続的検討、これはずっと代替案を検討してます。

4番目に追加したのが、CO₂削減とごみの減量化ということで、これを考えております。

具体的に私たちは数値目標を20%と。今のところ、私たちの基準年度で過去3年間で13%削減してますので、TME Sさんの努力も含めて、皆さんと一緒に頑張ってしていこうと。

たまたま昨日、これが配られました。私もパンフレットをもらいに市に行きましたので、その前にこのメンバーには配りましたけれども、これを読むと、芦屋市民全員がやらなきゃいけないんですよ。芦屋市がやるだけの話じゃなくて、全員が強力してやらないと、2030年までに約50%の削減、それから50年度までにゼロカーボン。ですから、本当にこれは真剣にやらないとね。この数値目標があまり書いてないですよ、明確に。ここは書くべきやと思うんです。市民の皆さんこんだけやらなきゃ、やりますので、ぜひとも御協力をと。徹底的にやらないと、なかなかこれを読んでも、恐らくさっと、まあね、なかなか難しいかなと思っています。

それで、その先駆けとしても利用者の会でこれをやっていきたいなと思って、4番目に上げました。ただし、2回、前回、前々回のときにこれをやっても、CO₂削減に関しては全く興味がないというか、残念ながら、そういうアプローチはちょっとまだ早過ぎたなという気はします。それでアプローチを変えまして、電気量の削減をぜひしたいと。それはCO₂の削減につながりますという形に持っていかないと、電気量の削減と言ったら、皆さん少しずつぴんとくるかなと思って、今、考え直しをしています。

す。

この4つ、ぜひとも市の方、それからTME Sの方も一緒になってね、パイプラインを何とか守っていききたいなと今思って、この4つを私のほうで提案として上げました。以上です。

司会

ありがとうございます。何か御意見ある方いらっしゃいますか。なければ、芦屋市のほうの今年度の目標をお願いいたします。

市

じゃあ、資料5、お願いします。芦屋市の令和6年度の活動の目標としまして、まず1番、代替収集の検討ということで、今ちょうどフェーズ3に入っております。令和6年度となり、ロードマップでは、いよいよフェーズ3に突入しております。

検討項目としまして、先ほどあったように、複数の代替案検討、内容は複数の代替案の作成、評価基準の策定、代替案の評価となります。

これらの検討項目を引き続き、先ほどから出ている、ごみカート、これを今のところはこれを中心に複数の代替案の作成を行います。条例もごさいますように戸建てやマンション等の住宅形態に応じて検討していくような必要もごさいますので、既に使用されているごみ収集方法も必要に応じて話し合っていくつもりです。

フェーズ3で行う先ほどのことというのは、これまで以上に時間がかかりますので、適宜、この利用者の会とスケジュール管理を行いながら進めていきます。

また、必要に応じて環境施設課だけでなく、道路・公園課、収集事業課などの意見もワーキンググループで反映するようにしていきます。代替施設の維持管理等の運用について、利用される市民の皆さんで行うことになります。

フェーズ4、今度、2年度ですね、代替案の決定での実証実験につながるようなフェーズ3、この2年間にしていきたいと思っております。

続きまして、2番目、運転方法の変更に伴うCO₂削減。先ほど利用者の会からもありましたように、CO₂の削減という観点で昨年の3月から運転方法の変更を行ってきましたが、令和5年は試行錯誤の中、パイプライン利用者の利便性とのバランスがあり4回も変更しております。今後は、パイプライン利用者の利便性とCO₂の削減効果、このバランスを見ながら運転方法の変更に伴う効果、メリット、デメリットをTME Sさんと協力してワーキンググループで話し合っていきたいと思っております。芦屋市は以上です。

司会

TME Sさんからお願いします。

TME S

TME Sから目標を御説明いたします。

毎年あまり変化はないと思います。1番、安定稼働への貢献。これは異常発生を未然に防いで、システム異常や問合せ件数を減らすように努め、

安定稼働に貢献していきたいと考えております。

ＣＯ２排出量の削減としまして、昨年度と同様、電気使用量を減らす運転方法の御提案を継続させていただきたいと思っております。今後も利用者の会と芦屋市さんと連携して社会貢献に取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

利用者の会 利用者の会の山口です。大きな誤解がありますね。今年フェーズ３じゃないですよ。この表、もっと見てください。フェーズ１、2022年度のこの３つ、フェーズ２は2024年度の下の３つ、2026年度がフェーズ３、今年が何か２年ずれてません？2024年度、２年かけてデータの収集、データの分析と整理、これです。これフェーズ３じゃありません。フェーズ３は2026年から。何かその誤解があって、何で急いでるのかなというのがやっと分かりました。ずれてる。そうしないとおかしいでしょう。2028年がフェーズ４、2030年がフェーズ５。

利用者の会 2026年度から2028年度までが。

利用者の会 フェーズ３。

利用者の会 フェーズ３。ほんならこのフェーズ３をちょっとこっちのほうへちょっと移動してもらうたほうが分かりやすい。

利用者の会 うん、分かりやすい。そうは思いますけども。基本的な誤解はそこにあると思う、全部ずれてる。

市 この間、間違っていたということですか、これ。

利用者の会 いや、フェーズ２が2024年から2026年。

市 フェーズ１はどこからどこですか。

利用者の会 フェーズ１は2022年度から。2020年度はスタートですから、これ何もしません。

利用者の会 １つずつ段階的に上にずらしていってもうらほうが分かりやすい。

市 この表って、何か2020年から22年度からフェーズ１に見えるんですけども、それではない。

利用者の会 うん。

利用者の会 ただね、山口さんいいでしょうか、ワーキングでみんな、いろんな災害が起きたりして早く止まってしまった場合なんかでも、不慮の何か問題でパイプラインが止まってしまったりすることも考えられるからということで、このもともとなつったマップを少し早めにみんなで話をしようというようなことがあって、ちょっと今スピードが速過ぎる感じのところに行ってしまうような気も私もするんですけど、早くしようというふうに伝えたことは事実です。

何か物の開発をしているときの時間の時間経過で言えば、確かに今ちょっと早めのほうがいいかもしれませんが、ここはちょっと何か急にエンジンがかかり過ぎて、何かスピードがすごく速くなって、ちょっと私自身としてはついていけないなというぐらいのスピードになってる、ここは。

市 だから。

市 この間がこれ。

市 と思ってます、僕は。ただ、え？

利用者の会 絵の見方やね、絵の。

市 すみません。ページ2 ページ目のほうを見ていただいて、このボリュームマップなんですけど、マップなんですけども、期間が2020年から2030年末までになっていると。2030年が末になるんですけども、先ほどの御指摘があった3 ページの話でいきますと、フェーズ5は2030年からだということになって、ちょっとこの辺、矛盾になってくるんです。そういった意味合いからすると、2020年からが2年間でフェーズ1、2022年からがフェーズ2、24年から2年間で3、26年から4、28年からが5、で、2030年に終わるという、そのマップのつもりで多分、皆さんされてたかなと思いますので。多分その期間の考え方からすると、今、言ったように2020年がフェーズ1で、今2024年がフェーズ3、これが妥当になってくるかなと。

利用者の会 いや、違う違う。

利用者の会 違う違う。林さん、それね、ちょっと待って。林さんそれね、何か自分で解釈されてますけども、これつくったときの、そのときの打合せをもう少しそれだったらやってからやらんとやね。

市 それを聞きたいんです。

利用者の会 自分の個人的な解釈でやったら、ちょっとこれ話違いますよ、これ。そうじゃないですか、山口さん。

利用者の会 そうそう。

市 はい。2030年の末で終わるという形ではないんですか。

利用者の会 違う違う。2030年から2年間かけて合意形成をやって、2033年から5年間かけて順次やる。ここに書いてる。

市 これは図を変えなあかんの？

利用者の会 いや、図はこのとおりでいいですよ。問題は、この2024年度のところにちょこっとひつついてるので、これをもうちょっと横へ。

利用者の会 そうやね、これちょっとずらしたほうが分かりやすいと思うわ。

市 これ、2 ページ目の期間も延ばしたほうがいいんですかね。

利用者の会 いやいや、それは今後、話せばいいけど。

市 ああ、そうですね。

利用者の会 この目標として、フェーズ3って書いてあるので、違いますよと。今、フェーズ2ですよと。

利用者の会 これね、もう一遍ワーキングか何かでね、これもね、ちょっともう一度ちょっと検討しましょうや、時間軸を。

市 ぱっと見たら、多分、そういう。

利用者の会 ずれて、あのね、初め行ってたときよりも確かにね、ただ、初め行ったときに、私はあまり主張しなかったけど、個人的に思ってた。まあ長期でね、これ自動車の開発なんかの、家電の開発とか化粧品の開発なら二、三年でやっちゃうんですけど、自動車の開発やるいうたら10年かかるんですね。その10年の感覚で考えないと、このプラントは駄目やなと思って、浅田さんと話ししてたことあるんですけども。

それで言うと、おっしゃるように、ちょっと後ろのほうがちよっと詰まり過ぎて、もうちょっと手前からやっとかんとあかんなというのはあるんですけども。ただ、これで決まってるから、この今言ってる、ちょっと林さんのおっしゃってるのと山口さんのおっしゃったのは、確実にどっちもずれてますので、これもう一遍ワーキングか何かで調整して、このマップ自体をね、もう少しちょっと調整するという必要があるんじゃないかな。ここでこれ話ししてもこれ以上詰まらないと思いますので。

市 そうですね、こうやって見たらちょっと何か、うん、何か。

市 野村さんがおっしゃるように、確かにちょっとアクセルを強めてるつもりはなかったんですけども、アクセルが強いと御指摘もありますので、その辺りちょっと相談しながらさせていただいたほうがいいかなと。

利用者の会 山口さん、そしたら、今、フェーズ2ですね。

利用者の会 今、フェーズ2。

利用者の会 フェーズ2で、データの収集、データの分析と整理、技術動向の把握と活用。

利用者の会 そうです。

利用者の会 この段階になるわけですね。

利用者の会 そうです。

利用者の会 そやけど、今は代替案の検討やとか、そっちのほうにもう入ってますわね。

利用者の会 それで、私の提案としては、もう一遍、これをおっしゃるようにワーキ

ングでやって。

利用者の会 そうやね。

利用者の会 実はこの次のページに詳細があるんですけど、ロードマップのね。ステップを全部書いてますので、これに期間を入れると。年限が入ってないんですよ。

市 なかったんですか。

利用者の会 いえ、私の理解では。

市 最初、ちょっと、うん。

利用者の会 この年度の下のやつ、全部下のやつなんですよ。

市 2022年スタートって書いたほうが分かりやすかったということですかね。

利用者の会 いや、スタートは2020年です。

市 2020年でいい。

利用者の会 だけど、何も動いてないんで。

市 最初の2年は何もやってなかったということでいいのか、そこら辺が多分、今、後々見た人の、残し方がちょっと難しいかなという。ちょっと1回それワーキングで話したほうがいいかと。

市 黄色の、黄色の四角、フェーズって書いた黄色の四角を。

利用者の会 一段上に書いた。

市 一段ずらしたほうが。

利用者の会 ずらしたほうが。

市 分かりやすいですね。これで見ると、やっぱりどうしても2020年から2022年がフェーズ1って見えるんで。フェーズ2が2022年から24年、フェーズ3が2024年から26年というふうに見えてしまうので、これをずらすような。

利用者の会 変えましょう。

市 で、多分、期間もちっと2年ぐらい延ばさへんと多分。

利用者の会 そうそう。恐らく林さんも知らん。

利用者の会 次のワーキングで検討しましょう。

利用者の会 ただ、ここでね、もう一度ね、今までのワーキングで話してきた内容を言うとな、そう言いながら、これで決めましたよ。ただね。

市 前倒し、前倒しでということやね。

利用者の会 前倒しでやらないと、何か、地震か何か来て壊れちゃったらどうするのという問題が1つと、それからもう一つは、このメンバーが高齢化してきて、ある程度、自分らが初めからやった思いの中で、ある程度そのところのベース、基本ラインを決めたいなど、その思いがその次へ伝わるように決めようよというのがあったと思うんですね。

市 そうですね。

利用者の会 だから、ちょっと前へ行った、前倒しに行ったというのはあったと思います。

市 前倒しに行った。

利用者の会 続きはワーキングでやりましょう。

市 そうですね。やっぱりちょっと何かやったほうがいいと思います。

司会 今後ワーキングでロードマップの見直しをさせていただいて、今年度はそうはいっても今後の検討もありますので、住宅形態に合わせた仕様書について進めていくという形をさせていただきたいと思います。それでは、ほかに資料5に対してなければ。

利用者の会 資料5に対して。

司会 はい。

利用者の会 地球温暖化というのが出たからね、山口さんからも、一応、芦屋市の地域脱炭素ロードマップと、この私もちょっと持ってきたんやけど、芦屋のゼロカーボンシティ芦屋いうてね、今日出てきて、ほんで部長さんも出てこられるんで、ちょっと芦屋市の活動のほうをお聞きしたいんですけどね、ちょっと。

これまでも、これは別として、芦屋市も市独自で市、本庁舎やとか庁舎、で、小学校、中学校とか、市の関係する設備の職員も含めて、当然、ISO14001のあの環境活動、これまでも、これより以前からもずっとやってこられてますよね。ほんで、今回のこれを見直してやるときに、ほんで芦屋市のほうもISO14001の環境マネジメントシステムを、令和3年やったか、もう一遍見直し、これに合わせて見直しをされて、令和元年度を基準年度として、令和8年度に8.2%やったかな、CO2を削減しますという目標を掲げられて、それでずっと活動をされてこられたと思うんですよ。ほんで、私、何かで見たときには、令和3年度は0.2%の削減でしたと、令和元年に比べて。少なかったというのもありましたしね。今度は令和4年度に市庁舎やとか小中学校とか、この環境処理センターのある設備、そこも再エネの100%の電力に変えますというふうなこと出てたと思うんですけど、それからしたら、もう、もう、令和7年いうたら来年ですかね。ほんなら今現状、その8.2%に対して、もう既に目標をとっくに超えてるん違う

かなという気もするんですけど、その辺どうですかね。

市

ざくっと言いましたら、言うていただいたように、もう過去からこの課題は地球規模でずっと言われています。京都議定書の時代から、今回パリ協定も含めても全世界の、そっちの方向へ行きながら、なかなか目標達成せえへんと言いながら、でも、どんどん地球温暖化は進んでくる中で、もっと加速度的に上げないかと。で、法律も変わってきました。その中で芦屋だけでなく全国的に目標年度を決めて、本当に脱炭素、CO₂排出もゼロ、それは出せへんのじゃなくて、ほかの代替エネルギーとか森林等での吸収とかも含めてプラスマイナスでゼロに持っていこうというお話が進んでおります。どうせ、それに伴って行政ですので、計画を見直しながらいくと。

で、今、本当に言うていただいてありがとうございます、ちゃんと調べていただいて。市の公共施設を対象とした取組というのはこれまでもずっとやってきてまして、今、言うていただいたように施設の、例えば小学校とか幼稚園がなくなったり、統合していきますとか、新しい施設は新しい環境にいいような施設出てますよ、で、太陽光を使う、そのエネルギーを電気を再生可能エネルギー100%の電気を使うということで、数字上、しっかりと公共施設に対しての目標で言うたらぐんと進んだりしてますけど。なので、電気を再生可能エネルギー100%でエネルギー使う、その年はぐんと進みますけど、そこからまた、また次の対策はどうやっていくとか、それを継続していくのとがまた課題となってますが。

今回の広報特集号でお出しさせていただいたのが、前年度に出させていただいた脱炭素に向けたロードマップというのを、また市でつくったロードマップというのがあるって、これが山口委員長さんおっしゃっていただいたように、地域全体、公共施設だけでなく、芦屋市全体で地域脱炭素を進めるため、これは御家庭とか事業者さんと一緒に取り組んでいかないと。そこでは芦屋市というのは大きい事業所とか工場があるわけではないので、企業優先の法律縛りではなかなか効果が上がらへんと。

なので、芦屋は芦屋で、住宅都市としての1個のモデル、これも先行のモデルにならんといかんという思いで、具体的には、どうやっていくかというたら、個人の住宅の皆さんが、例えば再生可能エネルギーの太陽光もそうですし、エネファームとか、そういう環境にいい施設を、設備をつけていただいたときの補助制度をつくりましたよとか。で、去年から家電を買い換えるときには、環境に配慮した家電に買い換えていただけるんやったら補助しますよとか、本当にメニューというのも、それはどれが一気に、また決定打というものではないんですが、そういう一緒に考えていただいたり、そういう転換をしてだきやすいようなモデルを出していこうということで、これは今度環境課というところが率先して。

利用者の会

市役所のね、環境課ね。

市

出していこうとしています。令和6年度中には今度、環境計画というものも改訂が予定されてまして、まあ言うたら、廃棄物処理というのは大き

な環境計画と脱炭素化へ向けた中の重要な大きなファクター、1個の目次といいますか、項目として、それはそれでしっかりと我々ごみの処理とか、ごみ焼却場の施設のことも含めて進めていっているというような考え方、言っていたいただいた御認識どおりでございます。

利用者の会

ほんで、それでね、私が聞きたかったのは、一般の民間の企業でもね、安全第一、環境最優先の下、各種経営計画をやるんです。そやから、まあ言うたら、安全第一で、環境が最優先なんですよ。市かてそうだと思うんですけど、そやからこれは芦屋市全体、市民も行政も含めて全体のことを書かれてますわね。

市

はい。

利用者の会

私が聞きたかったのは、市独自、市が関係している本庁舎やとか、環境、ここの施設やとか、そこで排出しているCO₂、それに対して、取り組んでる基準年度、目標に対して、今どんな状況かなというの、それが知りたかった。そやから、ISO14001も市もやられて、自分ところの職場でどれだけCO₂を排出しているんやいうので、ほんで、それをこれまでやってこられて、ほんで今回これに合わせて、令和元年を基準年度として、で、取りあえず令和7年度、来年度までですよ、その間に8.2%CO₂を削減しますと言われて取り組んでこられたと思うんですよ。そやから、市として取り組んでこられて、市のほうとして、その結果どうであったかな、今どういう状況かないいうのを、その辺をちょっと知りたかったんでね。

市

はいはい。

利用者の会

何でやいうたら、見たら何や令和3年度に、令和元年度に比べて0.2%、ちょっとちらっと見てね、ええっ？0.2%しか減らしてなかった。

市

そこからぐんと上がったってことですね。

利用者の会

令和7年度に8.2%いけるかなというのが物すごく気になったんです。せっかくこれをね、市の全域でこれ皆やれよいうて、これを出す以上は、市が掲げた目標。

市

そうですね。

利用者の会

市が実際にCO₂を排出する、それに対して、どれだけ今、達成した。令和7年に8.2%と言われてる、そんならもうそれ達成、もう既に達成して、もうこの8.2%言われてるやつをさらにレベルアップしようかという、そういう状況かないいうのもちょっと、今思うてる。何でやいうたら、再エネ100%のね、電気に、小・中学校やとか、市庁舎やとか、ここの収集事業棟、環境処理センターの収集事業棟も100%に変えましようというような出たからね。

市

はい。

- 利用者の会** ほんなら、これ100%に変えたら、CO₂のあれ何ぼやったかな、2,000トンやった？何か、もう減りますよみたいなこと書いてあったからね。で、それから見たら、8.2%もう既に超えとるん違うかなと、それをね、聞きたかったんですよ。
- 市** そういう御評価でいきましたら、単年度といいますか、年度目標的には、ただ、それがその先を見越した、こうずっと上げていかないかんとところで言うたら、手を緩めたらいかんのは違いないですが、ごめんなさい、目標、単年度ごとの目標に対して、今、何%ですと、ごめんなさい、具体的な数値でお答えできないんですけど。
- 利用者の会** いや、それね、基準年度と比べて。2019年、ここに書いてます、これそうでしょう。
- 市** はい。
- 利用者の会** 基準年度が2019年、令和元年を基準年度として、ここの排出に対して、芦屋市は自分が排出してるのを、令和7年、来年度には8.2%減らすという目標を掲げられてるんです、ISO14001、環境マネジメントシステムで。それで当然これもね、あのスケジュールいうか、担当のスケジュール見たら、令和5年度の結果は4月、5月にもう評価しますと出てるんですよ、そのあれを見たら。
- 市** それは、はい、それはいけてます。
- 利用者の会** ほんなら令和6年度、令和5年度、この元年と比べて、目標8.2%上げられてるのを、もう5年度にはそれどんな状況になってる。もう元年と比べたら、もうこれ突破してるとか、それが聞きたかった。
- 市** ちょっと説明が下手で申し訳ないですが、ざくっというと、再生可能エネルギーによる電力を使うという契約を達成したことで、それはクリアできてますが、それは今後もその契約において、その努力を続けていかんとあかんということが1点と。
- もう一点は、電気を使うものについては、その再生可能エネルギーというものを使いましたが、展開できましたが、ガスを使うようなエネルギー、施設もいっぱいあるんですね、大きな施設でいくと。で、問題は電気使用量を基に、そのCO₂の排出量を減らすという目標と、あと、全体のエネルギー使用量をどれだけ削減するかという観点もございまして、それで言うたら、エネルギー使用量というのは減ってないんです。だから、その2本立てとか、ガスでそのエネルギーを補っていることについては、やはりCO₂の排出量というのは大きいので、そういうところの分析も兼ね備えて、総合的にまた御提示していかないかと思ひますし、私ももうちょっと上手に説明できるように、また。
- 利用者の会** そうやね、そうやね。それせつかく掲げたあれやね、8.2%いうんであれば、これを出すんであれば、市はこれまでやってきて、もう令和7年度目

標を再エネ100%やったから達成したんやというのであれば、一旦はやっぱり発表すべきやと思いますね。

そこで、都市ガスって言われたけど、CO₂の芦屋市のあれから見たら、もう電力がもう8割、8割ぐらいがもう電力ですわね。都市ガスは15%とか、それぐらいの比率で、やから、電力再エネで100%でやって、それが非常に大きなあれやなど、100%で環境処理センターの100%の再エネを使っているなど。ほんなら、結局それ何やねんという、それ、ちょっと疑問点があるんですわ。別に関電が替わるにしても再エネ100%、契約せんとできないですわね。

市 そうです。

利用者の会 そやけど電気が来てるのは、再エネ100%の電力かいうと、そうではないですわね。今までどおり変わってないですわね。

市 環境処理センターが？

利用者の会 いやいや、再エネ100%に変えますと。小・中学校とか、庁舎とな、皆再エネ100%の電力使います言うたって、電線から来るのはこれまでどおりの電気ですわね。別に再エネ100%の電力、専用に流れてくるわけじゃない。

市 電気に色ついてるわけじゃないですけども、でも、それは再エネ100%の電力と。だから電気代自体は高くなってるんです。

利用者の会 もちろん、もちろん、それ専用にするからね。

市 はい。そこら辺の予算措置とかその判断も含めて行政のほうでも、もちろん地域の皆さんにお願いしたり、一緒にお願いしますと言う以上は率先。

利用者の会 以上は、率先して自分らが。

市 はい、それは率先実行計画という。

利用者の会 こうもうやってるんやとこう。

市 そうですね。

利用者の会 やっぱり発信すべきかなと思いますわ。

市 はい、分かりました。ありがとうございます。

利用者の会 ほんで、収集業務管理棟もそうなんやったら、パイプラインもそれどないなっとなやという、ちょっと疑問点があるんやけどね。それも今のところ、しゃあないですね。できる限りよろしくお願いしますわ。

市 はい。

司会 ちょっと時間が押してるんで、次の議題なんですけど、次回協議会の予定なんですけど、10月の予算確定に向けて進めますので、また先ほどの仕

様書の進捗を踏まえて、来年度の予算をどうするかという話がありますので、10月末ぐらいに協議会を予定しておりますので、また御出席のほう、お願いいたします。本日の協議会は以上になります。友田さん。

利用者の会

最後に、すみません。芦屋市のほうにお願いがあるんですけども、こういう形で、今、ロードマップを出してますよね。これは修正かかるかも分かりませんが、要するに、シーサイドと南芦屋浜で私どもの組織に入っていない、要するに、兵庫県住宅供給公社、それから市営住宅、それからUR、これが結構な棟数があるんですよ。だから、そういう方に、要するに、そこの今3社のトップに対して、もう廃止しますよと、こういう芦屋市としたら、こういう形で次の代替案も考えていますよということをぜひお話ししてほしい。彼らは、住んでる人は何となく聞いているかも知れないけど、今の3社に関して、ええっ？何やうちらずっとパイプラインがあるからいうて募集してるんですよということやったら、それは契約の齟齬が出てきますから、それは確実に早めをお願いしたいのと。

それとあと、やはりその入居される方の説明で、今のところは、一応日曜、オペレーションの日ですけども、パイプラインは日曜日が止めてますよと。あとは青ランプやったら捨てられますよという形で、今の3社が入居者を募集してるんです。それが今度は一応まだ決まってないけれども、何曜日がある日を、まあ木曜日ぐらいにしようかいねと、これはまだ検討事項ですけども、それが決定した場合、そうすると、また募集要項と実態が違って、えらい違うやんかと、引っ越しした後、文句言われたら大変なことになりますので、要するにオペレーションする日が変われば、確実にそのトップの3社のトップに対して御連絡をお願いします。

市

はい。今の3社に関してはいろいろ行って話はしてますので、パイプラインの廃止を知らないことは全くないですし、確かにその木曜日をもし止めるとなると、そこの影響というのはあると思いますので、そこはもう一回行くような形で考えて、アナウンスしていきたいと思っています。

利用者の会

お願いします。

市

あと止めるときは、多分、全投入口に多分掲示すると思いますので、それ以外にも。木曜日やめますよって。

利用者の会

住居よりもトップに。

市

はい、トップにも、はい。

市

条件に入ってるんですかね。

市

まあでも、どこまでか分からんけど、それはもうトップで話ししてという。

司会

本日はお休みのところ御出席いただきありがとうございました。本日の協議会はこれにて終了となりますので。ありがとうございました。

市

ありがとうございました。